

審議会会議録

会議名称	平成25年度 第4回伊達市立図書館運営協力会		
議 題	(1) (仮称)「伊達市子どもの読書活動推進計画」(案)について (2) 提言等について		
開催日時	平成25年12月19日(木) 14時00分～16時00分		
場 所	伊達市立図書館 2階 視聴覚室		
出席者	伊達市立図書館運営協力会委員 8名(欠席者2名) 事務局(伊達市教育委員会教育部図書館)		
	所管部課名	伊達市教育委員会教育部図書館	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	0名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【会議の概要】</p> <p>開会后、会長より挨拶があり、その後議題に沿って議事を進行し、質疑・意見交換を行った。</p> <p>会 議</p> <p>(1) (仮称)「伊達市子どもの読書活動推進計画」(案)について</p> <p>事務局～伊達市子どもの読書活動推進計画について、伊達市は策定が遅れているのでこれから取り組んでいきたい。主管は図書館なので各委員のご意見を伺いながら案を策定していきたい。但し学校教育に関しては図書館では判らない部分があるので、図書館でとりまとめた後、庁内関係課の検討会議で詰めていくこととなります。</p> <p>会 長～「伊達市子どもの読書活動推進計画」(案)について何かご意見をいただきたい。私も読んでみたが、読むこと自体大変であった。理念としては素晴らしい事を言っているが、具体的にどうするのか書いていない。現場におりてきたときに図書館ですすめていることと整合性があるのか。市民に公表してもどれだけ読んでくれるのか。</p> <p>委 員～計画に書かれているものの中には「ブックスタート」や「ボランティアの育成支援」「地域文庫の育成支援」など既に行われているものもあるが、今後進めていく上で明確化することは意義があると思う。ただ具体的なことがまだ書かれていないので、考えていることがあればお聞かせください。</p> <p>事務局～道は第三次計画、室蘭市・苫小牧市などは第二次計画に入っています。伊達市としてはまず第一次計画で頑張る方向性を示し、5年後の計画を目指しスタートする。第二次計画の段階で第一次計画の進捗状況を振り返り、それを基にその後の5年間をどうするのか決め実際に始めていく。伊達は今回初めてなので具体的なことがあまりなく、今後5年間をどうするのか載せなければなりません。他市と比較すると物足りないと思われるかも知れないが、まずこういう形が出さざるを得ないと考えています。最初から具体的なことを載せるとなると時間がかかり難しいし、これではいけないということであれば、各課を交えて時間をかけて作りあげていかなければならなくなります。</p>			

会 長～これらの案をみていくと、図書館で現状取り組んでいることはすでに入っているし、もっと具体的に書いても良いのではないか。ただ家庭、地域、学校に対しては「本来こうあるべきだ、こうあるのが望ましい」という表現にすると理解しやすいのではないか。道の計画を見るとそうしている。図書館自体がすることではないものは「望ましい」という表現が良い。地域文庫・ブックスタート事業などの充実については積極的に具体的に書いた方が良い。

委 員～5年後に5年間の成果をどのように評価するか。子供一人読む冊数が何冊から何冊になったというような数値目標が必要だと思う。

委 員～ブックスタート事業の配布率やアンケートで育児状況を把握する等、数値を出して目に見える形にして欲しい。

委 員～全体的に漠然とし過ぎているように思う。

委 員～「今年度はここに重点を置く」とか年度ごとに取り組みの振り返りが必要である。年度ごとの推移が積み重なっていったとき、5年後最終的にどうなったかがわかれば、取組みの成果が見える。

事務局～道との協議の中では、当初から数値目標を出している市はないとのことで、当初から目標値を掲げるとすれば初めての取り組みになります。

委 員～伊達くらいの小規模自治体であれば、数字が出せるのでは。総花的にやるより数値目標が必要ではないか。活字離れの時代に本を読ませるのは時代に逆行することなので。1年ごとにテーマを決めてはどうか。今どのくらい読んでいるのかをアンケート調査するのは学校に頼らなければならない。

会 長～具体的にまとめるとなると、学校から図書館に資料をもらえるか、調査をお願いできるか、クリアしなければならない問題がある。

委 員～数値目標を設定するとクリアしないとなくなるとなる。学校において勉強時間・部活動等の他に読書時間を取るのは至難の技であり家庭で行うものと考えるが、家庭でも難しいのではないか。まして国は図書費、人件費等にお金を出していない。

委 員～読書は大事なことはわかっているが、現実的には難しい。

委 員～学校図書室では1日10名、5日で50冊くらい本が借りられているが、借りているのは特定の者だけである。読書活動の啓蒙を学校が推進する、学校どうして本をローテーションすると子ども達はいろんな本が読める、そのようなシステムを作って各学校が活用し、図書館からも本が入れば、数値が出るのではないか。

委 員～目安として図書館と学校の現状の貸出状況をまず押さえておく必要がある。

事務局～図書館では一般貸出の他に学校への団体貸出の数値は押さえていて、特定の先生が授業で活用する本の学校別の数値は出すことができます。

学校図書室へは、篤志家より年に10万円相当の図書の寄付（図書館司書が選書）をいただいて、市内全小学校を1年間で巡回する事業を行っていますが、中学校は対象としていません。中学校では、先生が生徒に、図書館に本を借りに行くことを勧めているようです。

委員～中学校にも廻していただければありがたいが、紛失する問題が生じると思われる。中学生は放課後図書室に寄らないし、大体図書室は閉まっていて一斉に帰る。

事務局～本が紛失しても構わないというのは、寄託形式の地域文庫でやっている方式で、蔵書ではないので、紛失してもそれ程問題とはなりません。

委員～本は1回読めば十分なので、ある期間が経過した後は他の学校に廻せば良い。読書活動の推奨・啓蒙を進めていくのが学校であると考え。P6の「3 学校等における読書活動の推進」については修正をお願いしたい。

会長～学校での朝読の実施状況はどの様になっているのか。

委員～中学校では、やっています。

委員～小学校ではボランティアのお母さん20人前後が入って、朝読の時間に10分間読み聞かせをしており、図書室の利用も増えている。読書の大切さを訴えていくことが必要である。自分の子が在籍していたときをお願いして読み聞かせをしてから始まった。今でも地域ボランティアとして残っている。

委員～先生達にはどれだけ浸透しているのか。熱心な先生は毎月参加してくれているが、参加してくれない先生もいる。

会長～学校でも読書の時間を設けることになっているのではないだろうか。

委員～私が子どもの頃、道徳の時間に飴が配られて「ああ無情」を1年間読んでくれたことがあった。今でも記憶に残っている。

委員～先生の資質によって状況は変わる。校長室に図書コーナーができることもある。

委員～先生の資質だけに任せて良いものか。それぞれの学校で取り組んでいるが、やり方はバラバラである。図書館を中心として連絡性があれば良い。

委員～読み聞かせボランティアの会としては長和小、西小、黄金小、有珠小に行っていて、歓迎してくれている。

会長～年間ずっと定期的に継続しているのであれば学校としては受け入れやすいが、奇数月とかになると調整は面倒でゆるくないと思う。

委員～学校の要請で奇数月に行っている。

委員～横浜市では教育委員会も入って活動している。

委員～教育委員会が入ると事故の際の保険の問題があるので、教育委員会として保険に加入するのか。

事務局～市か教育委員会のどちらかでボランティアに保険をかけるようになると思います。

ところで現状の統計数値としてあるものは使えますが、他の数値設定についてはどう考えますか。

委員～数値があつてノルマになるのは好ましくない。後になってから振り返る資料としては良いと思う。

委員～年度ごとの目標と次年度はこうするというのは必要だと思う。今年はここまでする、とあつた方が取組みやすい。ただ単に、5年後どうなつたでは困ると思う。

委員～結果を求めるのであれば、目標を持つてお願いした方が良いのでは。「PTA友愛の広場」で不要な本を売り利益を学校の図書室に寄付したり、また安く買って図書室へ寄付したことがある。学校図書室の現状は、先生の都合で図書室を閉めていることもあるし、学校の方針で貸出もままならない場合があり、子供が困惑する。

委員～現在の学校は一斉下校しないといけないので、放課後は図書室を開放していない。

会長～読書推進活動は昔は図書委員がしていたが、小学校は先生がつかないといけないと思う。

委員～ボランティアが入っていると読書への取り組み方が違う。ボランティアに入る回数が多ければ多いほど子供達は本に対して違ってくる。

委員～ボランティア活動は最初大変だった。先生も一緒に共有して欲しいと思う。先生は会議があるのでいないこともあるが、最近は終わってから来てくれる人もいる。3月の締めの会議の報告などは先生にお伝えしている。

委員～今の若い先生たちは本を読んでいないのではないだろうか。

委員～若い先生が自分の絵本を教室に置いていることもある。1年生の図書オリエンテーリングのあとは翌日から利用が多くなる。

会長～先生達は読書を大切だと思っている。ボランティアの人たちの活動で広がっている。読書推進計画の中に理念を書くのはいいと思う。相手の立場を尊重して表現に気を付けた方が良い。また数値まで行かなくともある程度の目標設定は必要である。

委員～他の小中学校の校長先生達の見聞も聞いてみたい。

会長～学校は読書推進自体を大事だと考えるので反対はしないと思う。

委員～数値目標を掲げるのは、校長先生は受け入れ難いのでは。

委員～現場では年の近い先生から推進された方がうれしいのではないかと。

委員～こういう計画を作ることは本当は良いことだと思う。自分たちも5年後の数値を見たい。

会長～学校図書室での1人あたり貸出何冊というような今後の推移を見ていきたい。

事務局～国は不読率（1か月に1冊も本を読まない子どもの割合）を小学生3%、中学生12%、高校生40%以下に下げる方針を出しています。

委員～その数値はそのまま使って良いと思う。伊達市でも不読率の数値は上がっているのだろうか。

委員～たぶん上がっていると思う。

事務局～登別市では学力学習状況調査のアンケート結果をそのまま使っているようです。数字をすべて載せているがコメントはない。他市もアンケート結果を載せています。

委員～小学6年生と中学3年生は、生活アンケート調査を行っている。

委員～計画としては、読書する機会を「増やそう」くらいで良いのでは。伊達市の子どもは他市と比べて本を読んでいるのか。現状の傾向は出せるのか。

事務局～今後庁内検討会議等で現状の数字は出てくるものと思います。

会長～事務局には特に表現の仕方について留意して考えていただきたい。以上、いくつかご意見も出てきたが他にありますか。なければ次の議題に移ります。

(2) 提言等について

会長～次に提言等についてどうするか。昨年は、議事録を詳しくまとめていなかったもので口頭で教育長に伝えた。今年はある程度何点かピックアップして提言したい。

委員～一任します。

委員～今年度は2つ大きなものがあるので、これらを中心にまとめて行ってほしい。

会長～会長・副会長・館長の3人で集まって協議し、成案を得て教育長に提言したい。今年度の会議は今回が最後となりますが、また委員が集まった方が良いときは召集するのでよろしくお願いします。

－ 以 上 －